



株式会社常磐植物化学研究所

創業時からの経営理念は「植物化学の成果の醫藥的應用により、社會公衆の福祉増進に寄與する」。

植物のちからを健康に、をスローガンにグローバルな事業を展開

今回ご紹介する加入事業所は佐倉市に所在する「株式会社常磐植物化学研究所」です。同社は「植物化学」(フアイトケミカル)の専門企業として、植物成分の抽出や分離精製に関する高度な技術を独自に研究開発し、その技術を医薬品原薬、化粧品原料、健康食品、食品添加物、研究試薬などの事業分野で展開している企業です。

去る8月4日、佐倉市の本社を訪問しました。お忙しいなか、当健保組合の組合会議員でもある立崎寛監査役、石橋和昌総務部次長、事業統括推進部・鈴木雅信氏のお三方から、会社の沿革をはじめ事業内容から製品紹介、福利厚生などを説明いただきました。

3点の経営理念を軸に、医薬品から健康食品分野まで進出

同社は昭和24年、元厚生省国立衛生試験所所長松尾仁博士により設立され、東京都渋谷区常磐松(当時)に本



立崎 仁社長

社を、千葉県佐倉市に工場を置きまし
た。社名は、当時の本社の所在地から
命名されました。

創業時は、放射線治療に効果のある
医薬品としてルチンをソバから抽出し
ていました。その頃の佐倉市は、ソバ
畑が一面に広がっていました。それに
注目した先代社長立崎浩氏が、佐倉
市内の農家にソバの栽培を委託し、抽
出から精製するまでの事業を展開し、
世界で初めて血管強化薬としてのルチ
ンを製造する医薬品原薬メーカーとし
てスタートしました。

32年に本社を現所在地の佐倉市に移
すとともに、立崎浩氏が社長に就任し、



本社社屋

一貫して植物
成分の工業化
に取り組みま
した。45年に、
基幹製品とな
った甘草を原
料とするグリ
チルリチンの
製造を開始し
ました。グリ
チルリチンは
甘味料や点眼
薬の抗炎症剤、肝炎治療の原薬として、
また、シャンプーなど化粧品の抗炎症
目的に使われました。そして57年、健
康食品分野に進出し、58年、多目的抽
出製造設備を増設し、各種植物抽出エ
キスの製造を開始しました。

59年、立崎浩氏が会長に、立崎隆氏
が社長に就任し、各種ハーブを商品化
しました。平成10年にメンタルハーブ
エキスを製造を開始し、翌11年には本社
社屋を竣工し、「創業50周年」を迎え
ました。14年、ラフマエキスの製造を
開始し、17年にラフマエキス配合の消

- 経営理念は
1. 植物のちからを引き出し、
新たな価値を創造します。
 2. 最高の技術で、
最高の製品を製造します。
 3. 社員の幸福と社会の発展に
貢献します。

同社は、植物のちからを健康にをス
ローガンに、植物化学の専門企業として
植物成分の抽出・分離・精製に関する幅
広いノウハウを蓄積し、植物に関するあ
らゆるニーズに応えることを信念とさ
れています。石橋次長は「まだ開発し
ていない植物の成分や、開発した植物
でも発見していない成分が多くありま
すので、これらの植物の力を引き出す
ことが課題です。お客様の要望に応じ
て長年培った植物抽出技術により、よ
いものを提供すること、さらに、植物
化学を提供するには自分たち社員が幸
せでなくてはいけない、そして社会の
発展にも貢献しよう、の3点が経営理
念です」と話されました。

現在は、医薬品、化粧品や健康食品

などの原料となるエキスを粉末を主とし
て製造しています。昨年は、「GMP
認証」を健康食品分野で受けるなど、
品質経営にも取り組んでいます。また、
天然物から有効成分を抽出・精製する
受託製造、化粧品やサプリメントなど
のOEM製品(相手先の会社の商標で
販売される製品の受注生産)や、大手
医薬品メーカーや大学と共同で、植物
由来の原薬開発を進めているほか、「か
ずさアカデミアパーク」内にサテライ
トラボを設けています。さまざまな分
析装置を完備し、分析サービスを行う

一方で、環境問題への取り組みとして
「エコアクション21」を設け、排出ガス
の削減や省エネなどいくつかの目標を
立てて取り組んでいます。植物資源か

ら開発、加工、製品化などすべてにお
いて地球環境への影響に配慮した製品
づくりに努めています。

睡眠改善、抗ストレス、抑うつ感の
低減に効果的な中国茶の一種でラフマ
葉から抽出したエキスを米フロリダ大
学、静岡県立大学、徳島大学との共同
研究により、リラックスサプリメント
「ベネトロン」として商品化し、販売し
ています。今後はプロジェクトチーム
を組み、漢方分野に積極的に進出され
るそうです。

食品分野では、「自然と美と健康」
をテーマに50種類以上のオリジナルハ
ーブからさまざまな商品を製造し、ゲ
ループ会社である日本サーナ(株)(当健
保組合加入事業所)が販売しています。

のかたわら、経済産業省から依頼され
た教育CSR(企業の社会的責任)に
携わり、大学からの研究講演依頼にみ
ずから出かけています。また、子ども
たちの理科離れを防ぐために、千葉県
内の小学校で理科の実験教室を行うほ
か、定期的に会社周辺の清掃活動やバ
ザーを行うなど、地域の人々との共生
をめざしています。

健康への関心高く、 健診の受診率は100%近く

健保組合の重要事業でもある健診、
健康づくりにについてお聞きしました。
始業時は全員でラジオ体操を行い、事
業主健診をほぼ全員の方が受診され、
さらに35歳以上の方は検診車による生
活習慣病健診を受診されています。ま
た、大腸がん健診やインフルエンザ予
防接種も多くの方が受診されるなど、
健康への関心は高いようです。健診後
の保健師の指導も行われています。さ
らに、健保組合が貸し出したデュアル
周波数体組成計による体脂肪測定を
健康の維持・増進に役立てられており、
健保組合としてはうれしく思います。

スポーツでは、今年度の健保組合の
野球大会において2年連続、通算9回
目の優勝を飾りました。社員の方の福
利厚生面では、親睦団体常磐会を中心
に有志がボウリング、釣り、キャンプ
などを行い、サマーパーティーでのパ

株)常磐植物化学研究所が製造したものを、
日本サーナ(株)で販売している商品



商品についてのお問い合わせは
<http://www.sanapia.co.jp/>へ

ベキューでは盛り上がるそうです。

また、社内旅行を行い仕事以外のコ
ミュニケーションを大切にしていま
す。このほか誕生月のケーキ贈呈や家
族との時間を大切にしようとして「ハッピ
ーファミリー制度」として休暇を1日
設け、さらに食事券をつけるなどユニ
ークな特典や、希望者には教育研修制
度を設けています。これらは「社員の
幸福」を経営理念として掲げているこ
とに基づく一環です。なお、事業所の
エントランスにはAED(自動体外式除
細動器)が設置され、緊急時に対応で
きる体制になっています。

最後に、今後めざしていることを伺
うと、「時代のニーズは医から食、治療
から予防へと関心が高まるなか、植物
化学成分への期待はますます高まって
います。10月1日にコーポレートロゴ
の変更を予定し、これを契機として海
外企業とのジョイントや海外での生産
拠点の新設、漢方分野への進出や大学
との共同研究などで、植物のちからを
健康にをスローガンに、グローバルな
事業を展開していきたい」と石橋次長
は答えられました。

お忙しいなか、長時間にわたり取材
にご協力いただき誠にありがとうございます。
ありがとうございました。これからも事業分野は多岐
にわたって拡大されていくことと思ひ
ます。貴社のますますのご発展をお祈
り申し上げます。